

### 平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

#### 1 めざす学校像

<p>地域の様々な人々と連携・協働し、夢の実現をめざして本気で挑戦し、自ら考え行動できる人材を育てる学校をめざす。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 確かな学力を身につけ、自らの力で進路実現できる生徒を育成する。</li> <li>2 規範意識・人権意識を育み、社会的基礎力（踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を身につけた人間を育成する。</li> <li>3 英語教育、国際教育のさらなる充実を図り、グローバル化の進む 21 世紀を多様な人々と共創できる人間を育成する。</li> </ol>
--

#### 2 中期的目標

<ol style="list-style-type: none"> <li>1 確かな学力を身につけ、自らの力で進路実現できる生徒を育成する。       <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 「わかる授業、充実した授業」をめざして授業改善に取り組み、生徒の学習意欲の向上、学習習慣の確立を図る。           <ul style="list-style-type: none"> <li>ア ICT 機器を効果的に活用し、アクティブラーニングなど指導法の工夫をすることにより、「主体的・対話的で深い学び」となる授業をめざす。</li> <li>イ 教員相互の授業見学等を日常的に実施し情報交換を行う中で、授業のコツやノウハウを共有し、授業改善・授業力の向上に取り組む。</li> </ul>           また地域の中学校と連携し、相互授業見学を推進する。            授業アンケートにおける授業満足度について 80%以上を維持する。         </li> <li>(2) 学校一体となって、「学習する体制」を整え、生徒一人ひとりの学習支援、進路実現の支援を行う。           <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 3 年間を見通し、1 年次から計画的に「学習会」を開催し、生徒のモチベーションの向上を図る。</li> <li>イ 補習・講習を充実させ、生徒一人ひとりの進路支援体制のさらなる充実、学習支援体制の充実を図る。</li> </ul>           生徒の進路達成満足度（H30 年度 97%）について 90%以上を維持する。         </li> </ul> </li> <li>2 安全安心な学びの環境を整え、規範意識や人権意識を育み、社会的基礎力（踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を身につけた人間を育成する。       <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 生徒の人的・社会的自立を支援するとともに規範意識を身につける指導体制を確立する。           <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 学年、生指部の連携を強化し、学校全体で同じ基準のぶれない生徒指導・支援体制の充実を図り、遅刻指導、挨拶や礼儀の指導に全教職員が継続して取り組む。</li> <li>イ クラス活動、生徒会活動、学校行事、部活動等を通して、社会的基礎力を育成する。特に行事の活性化に取り組み、学校生活に対する充実感を高める。</li> </ul>           また部活動の加入率を上げるとともに退部率を減少させる。            保護者向け学校教育自己診断における生徒指導体制への肯定率（H30 年度 68%）を 2021 年度には 75%以上とする。            各行事に対するアンケート結果による満足度（H30 年度 87%）について 85%以上を維持する。         </li> <li>(2) 生徒一人ひとりの支援体制・教育相談体制について、保護者及び専門関係機関と連携しながら充実させる。            生徒向け学校教育自己診断における教育相談体制・支援体制の肯定率（H30 年度 63%）を 2021 年度には 70%以上とする。</li> <li>(3) 情報ネット社会における人権侵害やいじめなど今日的課題について学び、人権意識、実践力を高める教育活動をさらに充実させる。            生徒向け学校教育自己診断における人権教育に関する肯定率（H30 年度 77%）を 2021 年度には 80%以上とする。</li> <li>(4) 自然災害等を含め緊急事態発生時に迅速かつ適切な対応ができる連絡体制の徹底を図る。            生徒向け学校教育自己診断における、学校安全に関する項目の肯定率（H30 年度 66%）を 2021 年度には 75%以上とする。</li> </ul> </li> <li>3 英語教育、国際教育のさらなる充実を図り、グローバル化の進む 21 世紀を多様な人々と共創できる人間を育成する。       <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 英語コミュニケーション能力のさらなる向上に取り組むとともに、論理的思考力・課題解決能力・探究力の育成を図る。           <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 少人数展開、ICT 機器等の活用、アクティブラーニングの実施等により、一人ひとりが主体的・意欲的に取り組む授業を実践しながら 4 技能をバランスよく伸ばす。また、英語の学力調査も効果的に活用する。</li> <li>イ 姉妹校交流の充実、短期語学研修、イングリッシュ・キャンプ、これらを充実・発展させ、さまざまな国々との交流等を通じて実践的英語力をさらに向上させる。</li> </ul>           英語に関連する科目の授業アンケートにおける授業満足度（H30 年度 80%）について 80%以上を維持する。         </li> <li>(2) 国際教育、ESD（持続発展教育）に関する行事の充実・発展に取り組み、ユネスコスクールとして国際教育のレベルアップを図る。            生徒向け学校教育自己診断において、国際教育（ユネスコ活動を含む）に対する肯定率（H30 年度 87%）について 85%以上を維持する。</li> </ul> </li> <li>4 地域・保護者とつながる魅力ある学校づくりと情報発信をさらに推進する。       <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 中高連携、高大連携、地域連携等を密にし、地域に根ざした学校づくりを推進する。</li> <li>(2) ホームページ・携帯連絡網等を通じて、広報活動、保護者への連絡・情報提供をより充実させる。            保護者向け学校教育自己診断における保護者への連絡・情報提供の満足度（H30 年度 63%）を 2021 年度には 70%以上とする。</li> </ul> </li> <li>5 校内運営体制の改善と人材の育成を推進する。       <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 業務の精選と簡素化を図ると同時に、教職員の意識を高め、時間外業務の減少をめざす。</li> <li>(2) 「育てたい生徒像」を念頭に、本校の将来を見据えながら、教員を育成するシステムの構築を図る。            時間外業務の年間時数（一人あたり平均）について、2021 年度には 2 割減（H30 年度比）とする。</li> </ul> </li> </ol>
---

#### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [ 令和元年実施分 ]	学校運営協議会からの意見
<p>○学習面においては、ICT の活用度も 88%と高く、授業アンケートの結果を見ても、授業満足度が 80%以上を維持できている。補習・講習について体制を整え、生徒の満足度は 76%で昨年度より 6 ポイント上昇したが、さらに充実を図りたい。</p> <p>○生徒指導面について、「共感できる」と回答した保護者は 51%、生徒は 41%と、昨年度より課題が残る結果となった。一方で基本的な生活習慣の確立に力を入れているという肯定的回答率は 72%と高い。なぜその指導が必要と考えるのか、しっかり説明責任を果たすとともに、学年差を生じさせず学校全体でぶれない指導を徹底したい。</p> <p>○本年度、生徒会を中心に実施する各行事の満足度は高い（体育祭 94%、文化祭 86%）が、学校行事全体に対する肯定回答率は 56%である。その差が何を表しているのかしっかり分析を行いたい。</p>	<p>&lt; 第 1 回 &gt; 7 月 9 日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の提言を受け、本校の目標として「一つ上をめざす生徒・難関大学をめざす生徒を増やす」ことを掲げたいとの思いを、今年度始めに校長から教職員へ伝えたことの報告と今年度の計画について説明した。委員からは、方向性が非常に明確に感じたが、生徒も様々なので、生徒の自主性の幅を示すことも大事である、とのご指摘を受けた。</li> </ul> <p>&lt; 第 2 回 &gt; 11 月 22 日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業見学の後、国際文化科への改編（令和 3 年度より）に伴い第 2 外国語教育のさらなる充実をめざしていく旨を説明。その他、各分掌より取り組みの進捗状況を報告した。</li> <li>・各委員から、河内長野市の実態として、様々な国籍の人々への対応の必要性や就労人口の激減など、情報提供があった。</li> <li>・学校ホームページについてのご意見を頂戴した。</li> </ul>

<p>○本年度、防災訓練時に地元の NPO 団体と連携し、薪そのものをストーブとして活用する方法や非常食の試食等も加え、防災への意識づけを行った。防災教育についての肯定率は 75%と昨年度より 9 ポイント上昇した。</p>	<p>&lt; 第 3 回 &gt; 3 月 3 日の開催を中止 メールにて意見を頂戴した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価によると、年間計画に沿って運営されていた事実、また評価も目標数値を達成している項目が多いことがうかがえる。総評としては「よい」と考える。</li> <li>・さまざまな数値より、生徒は参加型の活動を好む傾向が伺える。「アクティブ・ラーニング」型の学修に適合しやすいことを示していると考えられ、さらに生徒主体の課題解決型学修が展開することを期待する。</li> <li>・地域の中学校との連携内容をさらに深化できると良いと考えている。</li> <li>・保護者からも相談しやすい学校の雰囲気が良い。</li> <li>・語学教育や国際理解教育のさらなる充実を大いに期待している。</li> <li>・生徒指導への理解に課題を感じる。何を目的としてどういう指導を行うのかを、しっかり説明する必要があると思われる。</li> </ul>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 自分の力で進路実現できる生徒を育成	<p>(1) 生徒の学習意欲の向上、学習習慣の確立を図る。</p> <p>(2) 生徒一人ひとりの学習支援、進路実現の支援を行う。</p>	<p>(1) アイ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業見学週間」を設け、教科を越えて情報交換を密に行ないながら、「授業のあり方研究会」を中心に授業の質を向上させることをめざす。</li> <li>・中学校との相互授業見学システムを継続し（本年度は中学校の授業を観察）中高連携を促進すると同時に高校における授業の在り方を考える。</li> </ul> <p>(2) 学校全体で「学習する体制づくり」に取り組む。 ア 1 年生から進学希望生徒対象の「学習会」を計画的に実施する。 イ 講習・補習を組織的に計画・実施する。</p>	<p>(1) アイ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケートの満足度を 80%以上を維持する。(H30 80%)</li> <li>・生徒の ICT 活用授業の肯定率 90%をめざす。(H30 88%)</li> <li>・積極的に授業見学・情報交換に参加する教員数を 75%以上とする。(H30 73%)</li> </ul> <p>(2) 生徒向け学校教育自己診断における「勉強会・講習・補習等」についての肯定率を 75%以上とする。(H30 71%)</p>	<p>(1) アイ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケートの満足度は 81%であり、微小ながら上昇した。( )</li> <li>・ICT 活用は一定定着しており肯定率も昨年同様 88%に留まった。( )</li> <li>・授業見学等への参加教員率 83%であった。( )</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補習・講習等への肯定率は 76%であり、充実に向けて教育産業とのコラボを検討中 ( )</li> </ul>
2 安全安心な学びの環境整備、規範意識・人権意識・社会的基礎力の醸成	<p>(1) 規範意識を身につける指導體制を確立する。</p> <p>(2) 生徒一人ひとりの支援体制を確立する。</p> <p>(4) 緊急事態発生時の連絡体制の徹底を図る。</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア・学年間・生指部の連携を強化し、遅刻指導、身だしなみの指導等、学校全体で同じ基準で生徒に対応する体制を整える。</li> <li>・引き続き遅刻指導を重点的に取り組み、遅刻件数を減少させる。</li> <li>イ・体育祭・文化祭等各行事のマニュアル化およびさらなる活性化を図る。</li> <li>・新入生の部活動加入率を上げる工夫を凝らす。</li> </ul> <p>(2) 生徒一人ひとりの支援体制、教育相談体制について、SC に加え SSW 等外部関係機関と連携しながら、充実させる。</p> <p>(4) 緊急時の教職員の連絡体制を見直すとともに、生徒への防災教育を充実させる。</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア・生徒向け学校教育自己診断における生徒指導・支援体制の肯定率を 50%以上とする。(H30 45%)</li> <li>・年間の遅刻件数を昨年度比 10%減とする。(H30 2,264 件)</li> <li>イ・行事の満足度を 85%以上とする。(H30 体育祭 95% 文化祭 81%)</li> <li>・新入生部活動加入率 75%以上とする。(H30 70%)</li> </ul> <p>(2) 生徒向け学校教育自己診断における教育相談体制・支援体制の肯定率を 75%以上とする。(H30 71%)</p> <p>(4) 生徒向け自己診断における学校安全に関する項目の肯定率を 69%以上とする。(H30 66%)</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア・生徒指導に対する生徒の肯定率は、41%と依然として課題の残る結果となった。( )</li> <li>・年間遅刻者数は 1,836 件、20%減となった。( )</li> <li>イ・各行事の満足度は体育祭 94% 文化祭 86% ( )</li> <li>・新入生部活動加入を原則全員に課した。入部継続率 76.5% ( )</li> </ul> <p>(2) 学校教育自己診断での肯定回答率は 73%であった。( )</p> <p>一方、「学校生活に関する調査」で、教育相談を受けた生徒のうち「相談がプラスになった」と回答した生徒は 82%と高い結果となった。</p> <p>(4) 学校安全に関する肯定回答率は 75%と昨年より上昇した。( )</p>
3 英語教育、国際教育のさらなる充実	<p>(1) 英語コミュニケーション能力のさらなる向上に取り組む。</p> <p>(2) 国際教育、ESD の充実・発展に取り組む。</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア・少人数授業の利点を活かし、生徒が主体的・意欲的に取り組む授業を展開することで、4 技能をバランスよく伸ばす。</li> <li>・各種英語学力調査を継続活用し 4 技能向上の指標とする。</li> <li>イ 姉妹校交流をはじめとする国際交流行事、短期語学研修、イングリッシュ・キャンプ等を通じて実践的英語力をさらに向上させる。</li> </ul> <p>(2) 校内における国際教育、ESD に関する行事（ユネスコスクールの取組みを含む）を企画・運営する体制を整え、教職員、生徒全体の国際教育のレベルアップを図る。</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア・授業アンケート満足度 80%以上を維持する。</li> <li>・英語学力調査で、全国平均を上回ることをめざす。</li> <li>イ 海外語学研修、イングリッシュ・キャンプ等各行事の参加者の満足度を 90%以上を維持する。(H30 語学研修 100%/キャンプ 91%)</li> </ul> <p>(2) 生徒向け学校教育自己診断において本校国際教育（ユネスコ活動を含む）に対する肯定率 85%以上を維持する。(H30 87%)</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア・英語に関する授業アンケート結果は、満足度 79%であった。( )</li> <li>・英語学力調査での結果については、国際教養科においてトータルでは 1、2 年とも全国平均に届かなかったが ( ) CEFR で A2 レベルに到達し、スピーキングでは両学年とも全国平均を上回った。( )</li> <li>イ 海外語学研修満足度は 100% イングリッシュキャンプは 99% であった。( )</li> </ul> <p>(2) 国際教育に関する満足度は、87%となった。( )</p>

府立長野高等学校

<p>4 ある学校づくりと情報発信 地域・保護者とつながる魅力</p>	<p>(1)中高連携、高大連携、地域連携等を通じて地域に根ざした学校づくりを推進する。  (2)広報活動、保護者への連絡・情報提供をより充実させる。</p>	<p>(1) 学校、学年また各教科、クラブ単位等様々な形で、市役所、保育所、小中学校・福祉施設等と連携する取組みを積極的に企画実施する。  (2) ・学校ホームページを魅力あるものに刷新する。 ・また、保護者携帯へのメール送信に関して、内容を充実させるとともに、タイムリーな発信を心掛ける。 ・広報活動について、学校全体で取り組む体制を確立する。</p>	<p>(1)参加生徒の地域連携、地域貢献の満足度について90%以上を維持する。(H30 93%)  (2)保護者向け学校教育自己診断における広報に関する満足度を70%以上とする。(H30 63%)</p>	<p>(1) 部活動部員による「ながら見守り隊」や図書委員会のメンバーによる市立図書館での活動も含め、参加生徒の満足度は92%であった。次年度以降も充実させたい。( ) (2) HPや携帯メールサービスに対する保護者満足度は71%であったが、HPについては、魅力あるものへの刷新に引き続き取り組む。( )</p>
<p>5 校内運営体制の改善と人材の育成</p>	<p>(1)業務の精選と簡素化、時間外業務の減少をめざす。 (2)教員を育成するシステムの構築を図る。</p>	<p>(1)教職員の負担軽減を考慮しながら、分掌の業務を見直す。 また、ICTを活用し、校務の効率化を図る。  (2)首席・指導教諭が中心となって、教員の実践的な「共育研修」及び「AL型教員全体研修会」を定期的実施し、校内の意思形成を図る。</p>	<p>(1)時間外業務の年間時数(一人あたり平均)について、前年度比減をめざす。  (2)教員向け学校教育自己診断において、教員研修に関する肯定率について70%をめざす。</p>	<p>(1)時間外業務の年間時数平均は294時間47分であり、昨年度328時間22分と比較し、縮減できた。( ) (2)教員の研修に対する意識についての肯定率は49%と低く、多忙感のため、研修の必要性に疑問を持つ教員が多い。実施方法について改善の必要性を感じている。( )</p>